

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回  
覧

--	--	--	--	--

高等教育活性化シリーズ 408 (通算 740 回)

開催延期

大学での学びの言語基盤 ―

# 日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策

高等教育活性化シリーズ 404 (通算 736 回)

2019 年 12 月 21 日 (土)

新グローバル・ポスト 30 万人時代を拓く ―

# 留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開

大学での学びの言語基盤 ―

# 日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策

～ I R T 診断テストの実際／教材・授業方法の工夫／教員の資質・力量 ～

- ※ 日本人学生と留学生の日本語力と授業理解／生活言語と学習言語／測定用 I R T テストの開発
- ※ 入学後の基礎学力判定／日本語・英語 I R T 診断テストの実際／実施・運営／年次報告
- ※ リメディアル教育としての日本語教育プログラム／教材と授業例／教員の力量／A I 時代の力
- ※ 学習言語力としての日本語教育プログラム／A I に負けない理解力／教材評価／教員の役割
- ※ 独立大学院における日本語教育の専門家養成／グローバル社会の教育研究拠点／質保証と改善

### ● 講師陣 ●

- 小野 博 氏 / グローバル人材育成教育学会 理事長  
昭和大 中村学園大 西九州大 客員教授  
(株) NHK エデュケーショナル (株) エヌ・ティ・エス
- 馬場真知子 氏 / 東京農工大 名誉教授 日本リメディアル教育学会 (JADE) 前日本語部会長
- 田中 佳子 氏 / 日本工業大 共通教育学群 准教授 日本リメディアル教育学会 (JADE) 学習言語部会長
- 河住有希子 氏 / 日本工業大 共通教育学群 准教授 日本リメディアル教育学会 (JADE) 理事
- 李 在鎬 氏 / 早稲田大 大学院日本語教育研究科 教授

2020 年 3 月 23 日 (月) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

新グローバル・ポスト 30 万人時代を拓く ―

# 留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開

～ 正規・非正規・別科生／日本語教育の質／海外教育事情／別科の深化 ～

- ※ 新グローバル時代の人材育成／留学生への日本語教育の質／日本語力と授業への対応／I R T テスト
- ※ 戦略的留学生受入れ～何を期待？／教育プログラムの多様な展開と限界／S G U 事業の実施のなかで
- ※ 学校法人ガバナンスの複雑さ／学教法と私学法による理事会・評議員会・監事／立命館事例
- ※ [城西大] 留学生別科の現状／質保証の実現～受入れ・教育・生活指導／学部・大学院との協働／今後
- ※ 142 カ国・地域での日本語教育の状況／教育機関数、教師数、学習者数の推移／主要な国別情報
- ※ [中部学院大] 別科 10 年の挑戦／出身国・進路／教育と生活支援／大学・短大との連携／地域協働

### ● 講師陣 ●

- 小野 博 氏 / グローバル人材育成教育学会 理事長  
昭和大 中村学園大 西九州大 客員教授
- 小山内 優 氏 / 創価大 国際部長 国際教養学部 教授 日本語・日本文化教育センター長
- 澤野 勝巳 氏 / 城西大 別科長 准教授
- 村田 春文 氏 / (独) 国際交流基金 日本語第 1 事業部 部長
- 佐藤 次郎 氏 / (一財) 日本語教育振興協会 理事長
- 片桐 史恵 氏 / 中部学院大 副学長 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 国際交流・留学生センター 所長

2019 年 12 月 21 日 (土) 開催 〈 “メディア参加” で受付 〉



地域科学研究会 高等教育情報センター

[ 参加要領 ]

日時： ■高等教育活性化シリーズ 408 日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策  
2020年3月23日(月) 10:00~16:40  
会場：日本教育会館 会議室(東京・神保町)千代田区一ツ橋2-6-2 TEL03-3230-2833  
(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」、A1出口より徒歩3分)

日時： ■高等教育活性化シリーズ 404 留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開  
2019年12月21日(土) 9:40~16:50  
※開催後のため、「メディア参加」のみの受付です。

参加費(税・送料込)	ご一名(資料代を含む)	メディア参加(資料及び音声CD)
高等教育活性化シリーズ 408	41,000 円	42,000 円
日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策	高等教育同人 21,000 円	高等教育同人 22,000 円
高等教育活性化シリーズ 404		44,000 円
留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開		高等教育同人 24,000 円

☆ 高等教育計画経営研究所同人については KKJ の HP でご確認願います。

- ※ メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声CDを送付します。
- ※ なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。
- ※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。
- ※ 受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 郵便振替 00110-8-81660

口座名 「(株)地域科学研究会」 (ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は ⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

\*メールでのお申し込みも可能です。 E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

☆ ご案内をパンフからメールにシフトしております。メールアドレスをご登録くださいませ。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
高等教育情報センター

東京都千代田区平河町2-3-10 ライオンズ平河町101  
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993 〒102-0093

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

年 月 日

(□に✓印を入れてください)

- 高等教育活性化シリーズ 408
- 日本語力の測定・評価と教育プログラムの深化策
- 高等教育活性化シリーズ 404
- 留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開

- 一般
- 同人
- 当日参加
- メディア参加
- 一般
- 同人
- メディア参加
- 銀行振込
- 郵便振替
- 請求書
- 見積書
- 領収書

支払方法

必要書類

勤務先

〒

(請求書等に記載の宛名: )

所在地

連絡部課・担当者名

TEL

FAX

メールアドレス

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 11:10	<p>□ <b>日本語力と授業理解</b>                      ～ 授業理解ばかりか英語学習へも大きな影響を及ぼす ～                      グローバル人材育成教育学会 小野 博</p> <p>1. <b>日本語・英語力テストの開発</b>                      (1) 言語習得における生活言語と学習言語の違い                      (2) 日本人小・中・高校生の日本語力の発達調査と日本語力測定用 IRT テストの開発                      (3) 中国語、台湾語、韓国・朝鮮語の発達調査、IRT テストの開発と応用                      (4) 日本人中学生・高校生の英語力の習得調査と英語力測定用 IRT テストの開発                      (5) 英語 IRT テストと英検との相関</p> <p>2. <b>大学における新入生の日本語・英語力の調査</b>                      (1) 日本語力調査でわかったこと (2) 大学生の日本語・英語力の調査結果が示すもの                      (3) ある公立大学の新入生の日本語・英語力が示すもの                      (4) 大学新入生の日本語力と英語学習への影響                      (5) 日本語力の経年比較と大学生への日本語教育の重要性                      (6) 日本人大学生の授業理解と日本人学生を対象とした日本語教育 (7) 留学生の日本語による授業理解</p> <p>3. <b>大学生から始める効果的なリメディアル英語教育</b>                      (1) コミュニケーション能力育成ワークショップとその成果 (2) 異文化対応力育成講座とその成果                      (3) 教養英語とは全く異なる短期集中型英語教育とその成果 (4) 短期派遣から1年留学へ                      4. <b>まとめ(地頭と日本語力を鍛える教育の確立を)</b> (質疑応答)</p>
11:20 11:50	<p>□ <b>入学後の基礎学力判定 ～ IRT診断テストの活用</b>                      ～ 日本語、英語(A・B)／実施・活用の実際 ～                      (株)NHKエデュケーショナル (株)エヌ・ティ・エス</p> <p>1. <b>日本語・英語IRTテストとその維持</b>                      (1) IRT テストはどの問題冊子(問題が違って)同じ結果が出る                      (2) IRT テストは、毎年、新問題の追加を行い、問題プールを大きくしている                      (3) IRT テストのコンピュータ化(CAT化)を進めている</p> <p>2. <b>日本語・英語 IRT テストの実施・運営</b>                      (1) 実施の手順 (2) 結果の報告                      (3) 毎年、全体の結果を分析した「IRT 診断テストの総括」の報告 (質疑応答)</p>
12:00 13:00	<p>□ <b>リメディアル教育としての日本語教育プログラムの実際</b>                      ～ 到達目標／コンセプト／教材と授業方法／教員の資質と力量 ～                      東京農工大学 馬場真知子</p> <p>1. <b>日本人大学生向け日本語教育</b>                      (1) 学力低下問題と日本語力 (2) 社会の変化と日本語力                      (3) グローバル化と日本語力 (4) リメディアル教育学会の活動</p> <p>2. <b>大学での日本語教育</b>                      (1) 目指す日本語力とは (2) 学生の変化 (3) 授業例 (4) 教材例</p> <p>3. <b>AI時代に求められる力</b>                      (1) Society5.0 に向けて (2) 知識の構造化 (3) 教員のできることとできないこと (質疑応答)</p>
14:00 15:30	<p>□ <b>学習言語力としての日本語教育プログラムの実際(AIに負けない理解力)</b>                      ～ 到達目標／コンセプト／教材と授業方法／教員の資質と力量 ～                      日本工業大学 田中 佳子                      日本工業大学 河住有希子</p> <p>1. <b>理解力とはどのようなものか</b>                      (1) 「AIに負けない」読み方とは (2) ヒトはどのように意味を理解しているのか                      (3) 読める人には語彙力がある (4) 留学生の日本語 IRT を見る</p> <p>2. <b>学習言語力としての日本語力育成</b>                      (1) 日本にいる日本語非母語話者                      ① 日本語学習、研究等のための在留 ② 研修、就業等のための在留                      ③ 結婚、家族の移動等による在留 ④ その他                      (2) 「読むこと」の困難さ (3) 「書くこと」では測れない、読み解く力</p> <p>3. <b>教材と授業方法</b>                      (1) 日本人(日本語を第一言語とする人)の教材 (2) 留学生等(日本語を第一言語としない人)の教材 (3) 教材を活用してどう活用するか</p> <p>4. <b>教員の資質と力量</b>                      (1) 人間は言葉でしか思考できない (2) 教員は何をするのか、しないのか                      (3) 日本語力と読む力を評価する(日本語 IRT、リーディングスキルテスト) (質疑応答)</p>
15:40 16:40	<p>□ <b>独立大学院における日本語教育の専門家養成プログラムの実際</b>                      ～ 教員・研究者の養成／グローバル社会の日本語教育拠点 ～                      早稲田大学 李 在鎬</p> <p>1. <b>日本語教育の40年間の進化を振り返る</b>                      2. <b>早稲田大学の挑戦</b>                      (1) 日本語教育を担う組織 (2) 日本語教育研究センターの役割 (3) 日本語教育研究科の役割</p> <p>3. <b>早稲田大学日本語教育研究の挑戦</b>                      (1) 研究科のミッション                      (2) 3つのポリシー:ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー                      (3) カリキュラム改善の実例1 (4) カリキュラム改善の実例2</p> <p>4. <b>これからのグローバル社会と日本語教育の質保証に向けて</b> (質疑応答)</p>

時間	講義項目
9:40 ～ 10:10	<p>□ 新グローバル時代の留学生の受け入れのシナリオと教育の質 グローバル人材育成教育学会 小野 博</p> <p>1. 日本の大学における最近の動き (1) 日本の経済状況の変化と大学に求められる人材 (2) 日本人学生はグローバル人材の育成 (3) 留学生への日本語教育の充実</p> <p>2. 大学生の日本語力と教育の質 (1) 日本語力とは (2) 日本語 IRT テストの開発 (3) 大学生の日本語力と授業への対応 (質疑応答)</p>
10:20 ～ 11:50	<p>□ 新時代の戦略的留学生受入れと教学経営の展開 ～ 正規・非正規・別科の教育プログラムと質保証 ～ 創価大学 小山内 優</p> <p>1. 留学生に何を期待するか? (1) 「質」(受入れ体制)か「量」(受入れ人数)か? (2) 「定員充足」と「収入」への期待 (3) キャンパスのグローバル化の教育の質 (4) 「評価文化」と留学生</p> <p>2. 教育プログラムの展開と限界 (1) 交換留学生、ツイニング・プログラム(編入生)、正規生 (2) 英語プログラム拡大の鍵 (3) 日本語・日本文化教育に関する問題 (4) 日本人向け海外留学プログラムと質保証</p> <p>3. スーパーグローバル大学創成支援事業の実施を通して見えるもの (1) 非採択校への波及効果の期待 (2) 創価大学の成功要因 (3) 世界大学ランキングに振り回されない経営 (4) 各大学のプログラムあつての質保証 (質疑応答)</p>
12:00 ～ 13:00	<p>□ [城西大] 留学生別科の質保証と学部・大学院との協働 ～別科の受入れ戦略/日本語一貫教育の質向上～ 城西大学 澤野 勝巳</p> <p>1. 別科に期待されるもの 2. 城西大学別科の成り立ちと現状 3. 質保証の実現に向けて (1) 受け入れ (2) 教育 (3) 生活指導</p> <p>4. 学部との協働 (1) 推薦入学制度 (2) 学部教員の担当授業 (3) 合同授業 (4) JIST</p> <p>5. 大学院との協働 (1) 事前指導 (2) 院生に対する補助講座 (質疑応答)</p> <p>6. 今後の展開</p>
14:00 ～ 14:40	<p>□ 海外における日本語教育の状況 ～ 「2018年度海外日本語教育機関調査」(速報値)を踏まえて～ (独)国際交流基金 村田 春文</p> <p>1. 2018年度機関調査結果について (1) 全体概要 (2) 日本語教育機関数、教師数、学習者数の推移 (3) 学習動機・目的</p> <p>2. 日本語教育 国・地域別情報について ～ 中国、ベトナム、韓国、台湾を中心に (質疑応答)</p>
14:50 ～ 15:50	<p>□ 日本語教育の質保証 ～ 教育活動評価と機関評価の実際 ～ (一財)日本語教育振興協会 佐藤 次郎</p> <p>1. 日本語教育をめぐる最近の動き (1) 外国人受入れ・共生のための総合的対応策 (2) 日本語教育機関の告示基準の改正 (3) 日本語教育推進に関する法律の成立と施行</p> <p>2. 日振協の教育活動評価と機関評価の実際 (1) 審査認定事業から評価事業へ (2) 教育活動評価事業の実施 (3) 機関評価事業の実施 (4) 日振協評価事業とISO2991認証の連携</p> <p>3. 研修事業・大学との連携 (1) 日振協の研修事業の実施 (2) 文化庁委託研修の実施 (質疑応答) (3) 大学との連携</p>
16:00 ～ 16:50	<p>□ [中部学院大] 留学生別科(日本語課程)～10年の歩み ～時代の変化の中で～ 中部学院大学 片桐 史恵</p> <p>はじめに</p> <p>1. 別科生の出身国と修了後の進路 (1) 出身国の変遷 (2) 進学先学部学科の変遷</p> <p>2. 教育と支援 (1) 日本語の教育 (2) 日本文化の学習 (3) 日常生活支援</p> <p>3. 大学・短期大学部との連携 (1) 大学・短期大学部への進学率 (2) 授業を通しての交流 (3) 大学・短期大学部生と留学生の課外交流 (質疑応答) おわりに</p>